

## 四十四田ダム水位変動域における植物多様性創出の研究

環境・地域政策系生態・景観と環境管理分野 伊勢澤 幸子

河川や湖沼のエコトーンでは、水生植物群落が発立し、多様な生物が生息する水辺生態系となっている。しかし、高度経済成長期以降、日本の水辺生態系は減少しており、水辺植物群落の創出が重要な課題となっている。

本研究では、ダム湖湖岸を対象に、多様な植生環境をつくり、新たな水辺生態系を創出することを目的とした。

本研究の調査地である四十四田ダムは、水位変動域に広い緩傾斜地を有している。今回、この領域から6つの調査区を選定し、植生調査を行った。

植生調査の結果、水位変動域に植物種90種と植物群落は33群落確認された。確認された群落は、抽水植物群落と湿生植物群落、陸生植物群落で、ほとんどが草本類であった。植物種および植物群落とも湿生植物、陸生植物が多く確認されたが、抽水植物は少なく、浮葉植物と沈水植物は確認されなかった。また、本調査より、松屋敷地区に多くの植物が生育している事が確認された。

松屋敷地区で確認された植物種は61種、植物群落は17群落である。この調査地区は、広範な平坦地を有しており、植物の定着しやすい環境となっている。また、沢や水路が多数見られることから、水生植物や湿生植物が生育しやすい環境であることが伺える。

松屋敷地区で埋土種子調査を行ったところ、上層に抽水植物と湿生植物の種子が含まれていた。土壌の層構造から、これらの種子は、ダム設置後に周辺から漂着したものと考えられる。以上から、四十四田ダム水位変動域における植生創出の可能性が示唆された。そこで、水位変動域に池を設置し、水生植物および湿生植物の生育適地を創出ことにした。

池は松屋敷地区の標高の異なる2地点に造り、

植生について追跡調査した。その結果、抽水植物が出現し、湿生植物の出現種数が増加した。このことから、水生植物の生育可能性が示唆された。

今後は、水辺生態系の創出のため、良好な池を維持し、水生植物群落の創出と維持に努めていく必要がある。